

申請者	学科名	保健福祉学科	職名	講師	氏名	樟本千里 印
調査研究課題	幼児期の道徳性の発達に及ぼす実行機能の役割					
交付決定額	200円					
調査研究組織	氏名	所属・職		専門分野	役割分担	
	代表	樟本千里	保健福祉・講師	教育心理	研究計画	
	分担者					
調査研究実績の概要	<p>本研究では幼児期の道徳性の発達に実行機能が及ぼす効果について検討し、各年齢における教育的示唆を得たいと考えた。そのため、成人を対象とした予備調査と幼児を対象とした本調査を計画した。本年度は、成人を対象とした予備調査のみの実施となった。</p> <p>わが国の学校教育において、心の教育の必要性が叫ばれるようになって久しく、子どもの発達を考えるならば、乳幼児期はその萌芽期にあたる。幼児教育の課程上、道徳だけを取り立てて指導することはないが、道徳性はその芽生えを培う時期と位置付けられ、子どもの生活や遊びの中で他者とのかかわりを通して培われるものであると考えられている。</p> <p>仲間との相互交渉場面は、問題解決場面としても捉えることができる。問題解決場面に必要される能力として2000年代以降、実行機能という言葉がよくつかわれる（新川、桜井、2004）。実行機能の発達は長期にわたるが、とくに幼児期において発達が著しいと考えられ、発達心理学分野では多くの研究がなされている。実行機能とは、ある目標を達成するように計画をたて、反応や行動を調節しながら目標状態へ達するために必要な働きであり、その過程には、目標を保持し続けること、自分のおこなった行動を振り返り、修正をしながら目標に近づくといった過程が含まれている。実行機能が言語発達に関連することから、他者感情推論（山村、辻本、中谷、2011）、欺き行動（近藤、浅田、水口、2011）との関連が検討されているが道徳性との検討はいまだなされてはいない。</p> <p>予備調査の目的は、実行機能を測定する方法はいくつかあるが、いずれの方法を取り上げて幼児に実施するのかを検討するためと、成人がもつ道徳性というある種の価値観（知識・信念）と関係しているのかどうかを確かめるためである。成人の道徳性の測定として、広田（2010）の根源的社会的ルール尺度を用いることとした。</p>					

<p>調査研究実績 の概要</p>	<p>対象 大学生 21名 (女性 21名・男性 0名)。すべてのデータがそろい、有効なデータを得られたのは 17名であった。</p> <p><u>1) 根源的社会的ルールの測定</u>      広田 (2010) の尺度を使用した。本尺度は 4 因子 16 項目からなる尺度である。4 因子は自己対人関連、生命関連、メタルール関連、所有関連と命名されている。回答形式は 5 件法である。授業時間内に質問紙を配布し、その場で実施・回収を行った。その際に、成績に影響するものではない旨の教示を行っている。各因子の平均得点は F1=3.25, F2=3.57, F3=3.42, F4=4.21 であった。</p> <p><u>2) 実行機能の測定 (抑制機能の測定)</u>      成田ら (2011) を参考に、Schoroeter らの方法を用いた。1 つのスクリーンに文字を 2 段で示しており、課題 1 は色の識別能力を確かめるための課題、課題 2 は色名単語の文字と実際の色が正しく一致しているかを認識する課題、課題 3 は色名単語との文字と実際の色が不一致であることを認識する課題である。PC を用いて提示し、原稿はパワーポイントを使用した。使用単語は赤、青、黄色緑の 4 色。採点は、正解に 1 点、誤答に 0 点、合計 12 点で行った。17 名の結果の平均は、課題 1 : 11.06, 課題 2 : 11.18, 課題 3 : 10.94 であった。</p> <p><u>3) 根源的社会的ルールと実行機能 (抑制機能) との関係</u>      根源的社会的ルールの得点とストループ課題で得られた実行機能 (抑制機能) の各課題得点との相関を見てみたところ、課題 1 ~ 課題 3 のいずれの課題においても、根源的社会的ルールの得点との間には相関がみられなかった。</p> <p>大学生を対象とした予備調査においては、道徳性 (根源的社会的ルール) と実行機能 (抑制機能) の間には関連性がみられないことが示された。関連性がみられなかったことに対して、大学生では見られないという可能性がある。これについては幼児期や児童期の調査によって発達的な傾向であるのか否かが示される。もう一つは課題における問題が考えられる。</p> <p>今回、道徳の指標として根源的社会的ルールを取り上げたが、根源的社会的ルールは文脈から切り離された規範・ルールを取り上げた尺度である。道徳研究において規範と道徳は一緒に語られることが多く、その分類が様々な形で行われているが、根源的社会的ルール尺度は、文脈から切り離すことで“道徳”ととらえようとしたものということができる。しかしながら、実行機能のような調整機能は、文脈の中でこそ必要な機能であるというように考えることができる。そう考えるならば、道徳性の尺度はモラルジレンマ課題のようなものを使用し、その理由づけとの関連を見ていく方が適切なのかもしれない。</p> <p>さらに、実行機能の測定も、本来ならば、抑制機能、シフティング、アップデーティングの 3 側面を測定する必要があるのだが、見積もりの甘さからストループ課題において抑制機能の側面からしか測定できなかった。本年度の研究で得られた結果は、文脈から切り離された道徳的価値観と抑制機能との関係ということになるのかもしれない。道徳性と実行機能との関連を示すには、文脈に依存したジレンマと、認知的柔軟性を反映するシフティングの側面にこそ焦点を当てる必要があると思われる。</p> <p>したがって、社会的文脈を考慮した道徳課題を選択すること、シフティングやアップデーティングの側面を測定することが第一にあげられ、また、実行機能の発達が著しいと考えられている幼児のデータを収集することが今後の課題と言える。</p>
<p>成果資料目録</p>	